



多角的な学びから 描ける可能性

国際戦略局技術政策課
研究評価係長

岡田 悠希 OKADA Yuki

令和 5年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課
令和 6年 7月 大分県総務部市町村振興課主事
令和 7年 7月 総務省国際戦略局技術政策課主査
令和 7年 8月 同 国際戦略局技術政策課研究評価係長

地方と研究、幅広い学び

私は総務省の行政官としてキャリアの4年目を迎えています。この短期間で多くの学びと経験を積んできました。

技術系の行政官として採用されましたが、2年目には、大分県庁へ出向し地方財政の業務を担当しました。県内市町村の決算状況の取りまとめや県内市町村へのヒアリングを通じて、地方自治体の財政状況を深く理解することができました。特に、地方がどのようなものに予算を割り、何を求めているのかを直接知ることができたことは、地方の視点から社会のニーズを具体的に感じ取る貴重な経験でした。この経験により、地方自治において今まさに直面している課題やその解決策について、より具体的に理解を深めることができました。

現在は、情報通信分野における国の方針等に基づいて、総務省が所管する研究機関である国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)が今後どのような研究に力を注ぐべきか、情報通信分野の革新の中でNICTがどういった役割を担っていくべきかなどを検討する業務に携わっています。

多様な視点を持って

一見すると、これまでの業務は全く関連がないように思えるかもしれませんが、今や私たちの生活を支える必要不可欠なインフラである情報通信分野の仕組みづくりにおいては、大分県で学んだ現場のニーズを知ることが不可欠であるとともに、NICTの使命の検討を通じて最先端の研究開発や今後の方針を学ぶことも重要だと感じています。様々な視点を持って今後の業務に携わることで、より現実的で持続可能な社会の構築に寄与できると考えています。

理系出身の行政官だからこそ

理系の方は、研究者や技術者として技術の追求を目指すことが多いかもしれません。しかし、社会基盤を整えることもまた非常に重要です。理系出身の行政官として、技術を支える制度や政策を構築することで、広範囲にその恩恵を届けることができると考えています。総務省の行政官も、選択肢の一つにさせていただきたいです。総務省は、多様なバックグラウンドを持つ仲間たちと共に、幅広い学びを得て、

その経験を生かすことができる職場です。ぜひ一度わたしたちの職場をのぞいてみてください。



大分県出向時の仲間と休日に大分県内を旅行!(写真は由布岳)



出向先の大分県庁の前で



外務省在オーストラリア日本国大使館一等書記官

武田 真理 TAKEDA Masamichi

平成 26年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電波部電波政策課
平成 27年 10月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室
平成 29年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課移動通信係長
令和 元年 7月 同 サイバーセキュリティ統括官付参事官付主査
令和 2年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課課長補佐
令和 3年 11月 同 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課課長補佐
令和 4年 4月 同 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課基幹通室課長補佐
令和 6年 6月 外務省在オーストラリア日本国大使館一等書記官

情報通信技術は世界平和の礎

あまりに大胆なことを言っているとと思われるでしょうか。しかし考えてみてください。世界中の人々と瞬時につながる現代において、もし通信が途絶すれば、政治や経済が大混乱に陥ることは想像に難くありません。

実際、「日本は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している」と言われる中、情報通信技術を巡る深刻な事態が世界各地で発生しています。国際海底ケーブルの切断、国家的背景が疑われるサイバー攻撃、政治的意図によるインターネット遮断、こうした事態は我々の平和や生活を脅かすものであり、民主主義への挑戦です。これらは世界共通の課題であり、世界的な議論が進められています。

こうした脅威は私たちの身近にも潜んでいます。自然災害や通信事故による通信遮断、フィッシングメール等によるサイバー攻撃被害は従前からあるものですが、最近ではSNSにおける偽・誤情報の氾濫、オンラインいじめといった事態は深刻さを増しており、今後AIが一層普及してくることを考えれば、AIの安全性確保も急務です。

私が勤務するオーストラリアでは国際海底ケーブルの防護、ファイブ・アイズの一国としてのサイバー対処、若者へのSNSによる悪影響の緩和(利用開始年齢の制限)など、日本若しくは世界をリードするような取組が進められています。私の日々の業務では、日本が参考にできる点や日豪協力の可能性についてオーストラリア政府と意見交換を行っています。

報通信分野は幅広く、だからこそ技術的知見に基づく冷静な議論が不可欠であり、技術系職員が総務省で発揮すべき価値は大きく広がっています。その価値とはつまり、世界平和に貢献することによって他なりません。こうした志を持ったあなたと一緒に働ける日を心待ちにしています。

情報通信で“ミライのフツー”を創造する

私は現在、愛知県豊田市において、市全体のDXを統括・推進する立場として、市役所業務をデジタル技術、データ等の活用・連携を基本とした行政運営へ変革し、質の高い行政サービスを実現するための業務に携わっています。

豊田市はこれまで“ミライのフツー”をスローガンにDXを含めた様々な取組を進めてきました。市役所業務は、医療、健康、福祉、交通、防災、教育、観光、産業、都市計画やインフラ管理など多岐にわたり、それぞれの分野でDXを進めていますが、それらのDXを進めていくためには、インフラとして総務省が所管する情報通信が必要不可欠となります。

私はこれまでのキャリアの中で、自動運転や宇宙通信といった分野で将来必要となる技術＝“ミライのフツー”の技術の業務に携わってきました。当時、“ミライのフツー”と思っていた技術は、すでに社会実装され、今の豊田市のDXを進めるために活用を検討しているものもあります。

情報通信という分野は、ほんの数年前まで漫画やアニメの世界だったものが現実になることもある変化が大変激しい分野です。そんな変化が激しい分野だからこそ、将来を予測し、国家として“ミライのフツー”を創造していくことが総務省の醍醐味だと思っています。新しい技術に触れ、日々成長できる環境が揃っています。

もし、情報通信に少しでも興味があれば、是非、総務省の門を叩いていただき、一緒に“ミライのフツー”を創造しませんか？



豊田市総務部CDO

太田 雅人 OOTA Masato

平成 27年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電波部電波政策課
平成 29年 7月 同 情報流通行政局衛星・地域放送課地域放送推進室
平成 30年 8月 同 情報流通行政局衛星・地域放送課地域放送推進室技術係長
令和 元年 7月 国土交通省道路局道路交通管理課高度道路交通システム推進室自動走行システム係長
令和 2年 3月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用企画室主査
令和 2年 8月 同 総合通信基盤局電波部電波環境課監視管理室監視係長
令和 3年 7月 同 国際戦略局宇宙通信政策課課長補佐
令和 5年 4月 消防庁国民保護・防災部防災課災害対策官
令和 6年 7月 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター
令和 7年 7月 豊田市総務部CDO